

やぶがらし

財団法人 日本植物調節剤研究協会会長
河 田 党

ヤブガラシとは、誰が名をつけたのだろう。その旺盛な蔓性の莖に巻きつかれると、木でも草でも一夏で枯れてしまう。正に「藪枯らし」である。

このように盛んな被覆力は、カバークロップとしての利用性がありそうに思われるが、事実は地中を縦横に走り廻る地下莖は、その除去が甚だ困難で、カバークロップとして使った跡の始末が誠に厄介になってしまう。それでも、その縦横に走り廻る地下莖は、地中必ずしも深く入ることがないので、根気さえよければ取り除くことは可能であろうが、さらに地中深く垂直におりている、丁度「さつまいも」の鰯足のようなやつが、比較的柔かく、引っ張ると直ぐ切れてしまって、深い地中に残る。しばらくすると、その深い所から芽が出て来て、忽ちに成植物となってしまう。植物学者でない私には、これが地下莖の一種なのか、根の変形なのか知らないが、これを取り除くことは全く不可能に近い。

「さつまいも」の蔓に似たその莖葉は、家畜の飼料にはならないかと思うと、これまた山羊でさえ見むきもしない。何か特別な臭気があるか、それともブドウの類だから酸っぱいのかも知れない。

こういった蔓性の雑草はエビヅル・カナムグラ・ヒルガオ・ヤブマメ・クズなど、その種類は少なくなく、樹木、生垣などの受ける被害は決して少なくない。

何んとかこれを徹底的にやつける薬が欲しい。

目 次

北海道における

除草剤利用の現状と今後の方向

農林省北海道農業試験場

作物第1部長 佐々木 正 剛

..... 2

植物調節剤の園芸への利用

—インドにおける国際シンポジウム

の話題から—

農林省園芸試験場

果樹部長 大 畑 徳 輔

..... 6

昭和42年度特作関係除草剤

試験成績概要

財団法人

日本植物調節剤研究協会

..... 13

新除草・調節剤

..... 17

お わ び

第2巻第2号は、東南アジア調査関係特集号として編集する予定でありましたが、種々の都合により、編集がこれにともなわず、第3号に譲ることにいたしました。ここに、あらためて、皆様に御報告するとともに、編集のおくれたことをおわび申し上げます。